

高齢者におけるビジョントレーニングの介入効果

キーワード：歩行、転倒、周辺視野、注視点、高齢者

- ▶ 高齢者は眼と手の協応動作が低下している
- ▶ 眼と手の協応動作は歩行速度と関連している
- ▶ トレーニングをすることによって視機能は改善する

高齢者における周辺視野と歩行能力の関連

- 対象者：高齢者：44名（平均年齢75.79歳）
- 評価項目
周辺視野：V-trainingシステムによる手眼協応課題
（10個のターゲットを素早くタッチ）
歩行能力：Timed Up and Go(TUG)テスト、10m障害物歩行テスト
- 統計解析：相関分析、重回帰分析（従属変数：手眼協応時間）

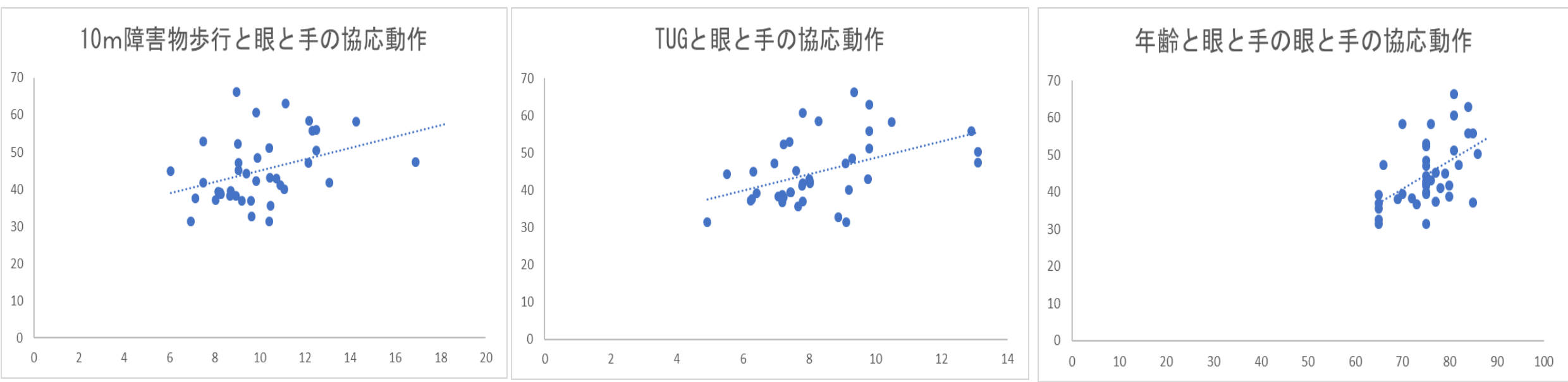


Table 4. Multiple regression analysis with total time as the dependent variable.

	Multiple regression analysis with total time as the dependent variable	Standard regression coefficients		95% CI		p-value	VIF
				Lower limit	Upper limit		
Age	0.435	0.211	0.972	0.003	1.053		
10-m obstacle walk	0.336	0.214	2.34	0.02	1.053		
Adjusted R2	0.332						

Excluded variables: sex, TUG

CI: confidence interval; TUG: Timed Up and Go; VIF: variance inflation factor.

出典：Sudo, D. et al. (2025). Association between Peripheral Vision and Walking Ability in Older Adults. Open Journal of Therapy and Rehabilitation, 13(2), 64–73. <https://doi.org/10.4236/ojtr.2025.132007>本ポスターはCC BY 4.0ライセンスに基づき作成されています。

視機能向上を目的とした高齢者へのビジョントレーニングの有効性

対象：視覚機能や歩行に支障のない地域高齢者30名（73.7±4.82歳）

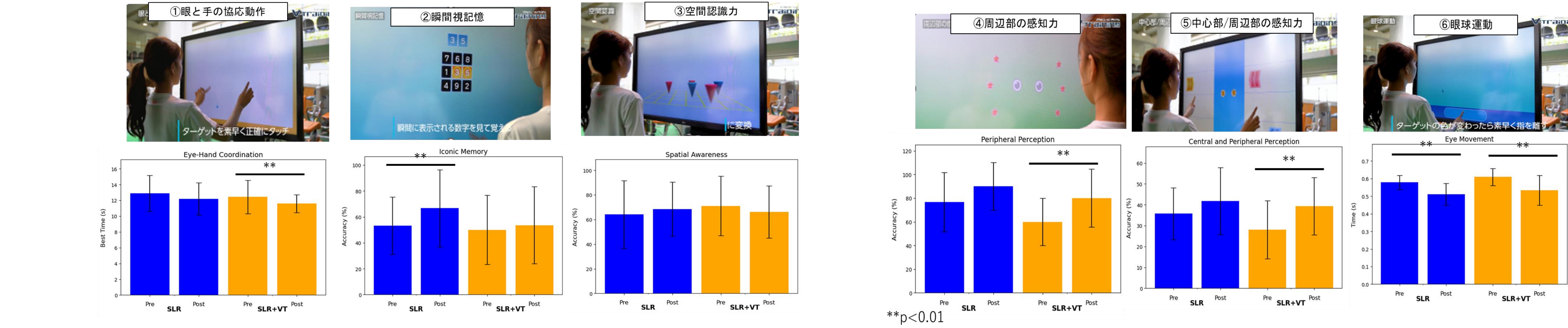
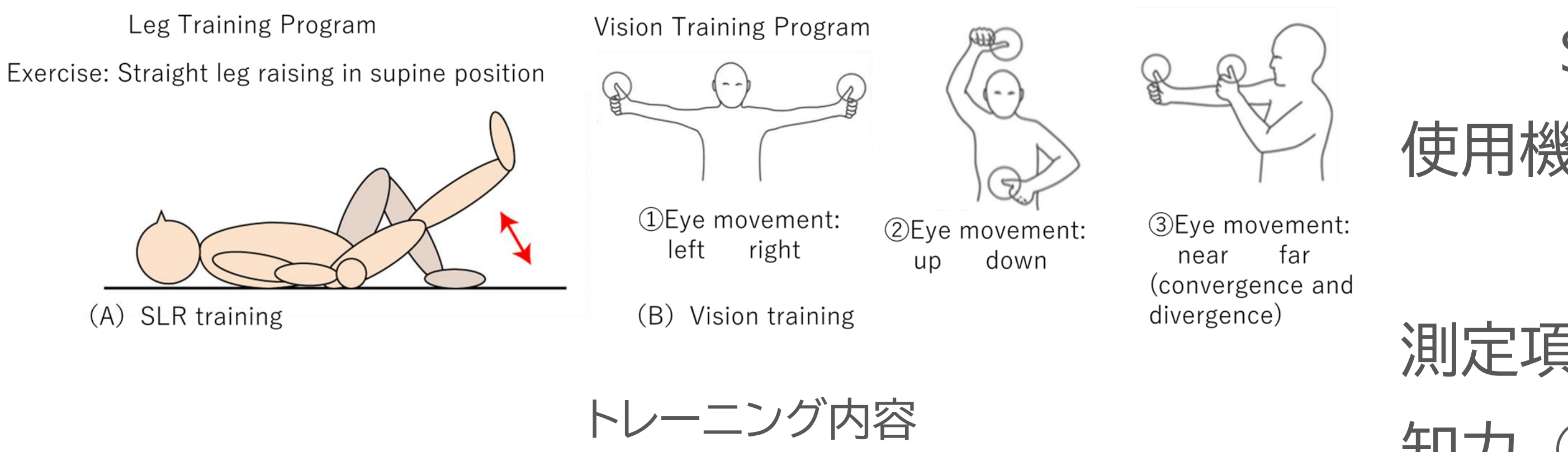
SLR群15名 vs SLR・Vision Training(SLR+VT群)15名

使用機器：ビジョントレーニングシステム

（アドバンスビジョンパートナーズ、V-training）

測定項目：①眼と手の協応動作、②瞬間視記憶、③空間認識能力、④周辺部感知力、⑤中心部/周辺部の感知力、⑥眼球運動

眼と手の協調、周辺部の反応が向上した



- ビジョントレーニングを行った群では、眼と手の協応動作、周辺部の感知力、中心部/周辺部の感知力、眼球運動が有意に向上していた。
- ビジョントレーニングは、高齢者における視機能を向上させる手法として有効であり、日常生活や歩行での視覚-運動制御の強化に寄与する可能性が示唆された。